

令和4年度分担研究報告書
災害や救急医療と依存症に関する課題抽出

研究分担者 佐久間寛之 国立病院機構さいがた医療センター 院長

研究協力者

阿部かおり（国立病院機構さいがた医療センター 看護師）

板橋登子（神奈川県立病院機構神奈川県立精神医療センター 心理療法士）

中村幸恵（国立病院機構さいがた医療センター 看護師）

長祥子（国立病院機構肥前精神医療センター 看護師）

手塚幸雄（医療法人タピック沖縄リハビリテーションセンター病院 医師）

青木梨恵（国立病院機構さいがた医療センター 心理療法士）

大森順基（国立病院機構さいがた医療センター 精神保健福祉士）

鎌田美樹（昭和大学江東豊洲病院 看護師）

佐久間みのり（国立病院機構さいがた医療センター 精神保健福祉士）

長徹二（一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん）

野村照幸（国立病院機構さいがた医療センター 心理療法士）

手塚聖人（国立病院機構さいがた医療センター 医師）

【研究要旨】

本研究の目的は、救急医療現場および災害医療でのアルコール関連問題あるいは嗜癖行動の実態を調査し、救急医療現場および災害医療現場で役に立つ提言を行うことである。最終年度は COVID-19 が看護師に与えた精神的影響とアルコール及び処方薬の乱用リスクとの関連調査を行った。

A. 研究目的

COVID-19 流行は 2020 年 3 月 13 日に新型コロナウイルス対策の特別措置法が制定され、4 月 7 日には東京、神奈川、埼玉、千葉などの 7 都道府県に初の緊急事態宣言が発令、その後 5 月 14 日には 39 県に緊急事態宣言が拡大した。医療機関でも感染症対策が急務となったが、未知のウイルスに対してはじめて対処しなければならないことへの不安は強く、医療の現場は強いストレスにさらされることとなった。特に患者との接触機会が最も多く密である看護師は強いストレスにさらされ、抑うつ状態などのメンタルヘルス上のリスクが高まることは多くの研究で知られている。しかし看護師の COVID-19 ケアによ

るストレス下での、飲酒や安定剤、市販薬などの依存・乱用のリスクの研究は本邦では行われていない。2023 年 4 月末現在で COVID-19 への対策は緩和されつつあり、5 月からは五類感染症への再分類が計画されており、感染症としてのピークは越えつつある状況である。しかし、今後ともパンデミックやさまざまな自然災害、天災や人為災害などはいつ発生するか分からない。したがって、COVID-19 流行下での看護師のストレス状況および飲酒や安定剤、市販薬の依存・乱用リスクを調査することは今後の災害医療を策定する上で重要である。看護師は医療者の中で最大人口の職種であり、COVID-19 医療でも直接ケアの主軸を担ってきた。従って、看護師のス

トレス対処行動、特にアルコール・薬物使用行動の実態を把握することは全医療者の同様のリスクを推定する上で有用性が高く、災害時の医療者のメンタルヘルスを管理する上で必須である。

本研究の目的は、COVID-19 が看護師に与えた精神的な苦痛を明らかにすること、看護師の COVID-19 感染流行前後でのアルコールや処方薬の乱用リスクを明らかにすること、精神的苦痛が悪化しやすい要因を明らかにすること、そして、精神的な苦痛への対処方法を明らかにすることである。

尚、本研究班では、新興感染症である COVID-19 の世界的パンデミックは、人命や社会活動へも大きな影響を与えたことから災害として捉えられること、またその影響下の医療者のメンタルヘルスへの影響を調査することは、医療従事者のバーンアウト予防を講じる可能性があると考えた。そのため、本課題であるアルコール依存症の早期介入から回復支援に至る切れ目のない支援体制整備のための研究趣旨と合致するものと考えられる。

本研究では 99 名の COVID-19 診療従事経験のある看護師を対象に web アンケートによる振り返り調査を行い、物質依存・乱用のリスク、抑うつ症状を調査し、その関連を調べた。

B. 研究方法

対象は COVID-19 感染症対応経験のある看護師である。分担研究者の所属する医療機関ないし研究協力者の所属する医療機関を通して回答者を募集した。調査は無記名で行われた。

対象者募集

分担研究者の所属する病院に勤務する看護師、及び依存症治療関連学会と依存症看護研究会の参加者を通じて所属する看護師に本研究の参加を依頼した。研究趣旨等は、紙媒体もしくはウェブサイト冒頭で説明し同意を得た。ウェブアンケートは SurveyMonkey 社が開発した SurveyMonkey を活用した。調査方法は紙媒体と

ウェブアンケートを選択でき、どちらも無記名で行われた。調査期間は、2022 年 8 月～11 月である。

倫理面への配慮

本研究は、厚生労働科学研究「アルコール依存症の早期介入から回復支援に至る切れ目のない支援体制整備のための研究」（課題番号：20GC1015）の一環として行われ、国立病院機構さいがた医療センターの倫理審査の承認を得て実施した（倫理審査番号 22-03）。

調査項目

1) 基本属性

①年代、②看護師としての勤務歴、③同居家族の有無について回答を求めた。

2) COVID-19 の影響

①COVID-19 の影響によって転居などの住居を変更した経験の有無、②COVID-19 専門病棟での勤務経験及びその期間、③勤務地におけるクラスター発生の有無、④COVID-19 によって一番精神的な影響を受けた時期について回答を求めた。この時期については、第 1 波を 2020 年 3 月～5 月頃、第 2～4 波を 2020 年 7 月～2021 年 6 月頃、第 5 波を 2021 年 7 月～2021 年 9 月頃、第 6 波を 2022 年 1 月～2022 年 5 月頃、第 7 波を 2022 年 7 月以降とし、時期と注釈を加えて選択肢とした。

3) 飲酒問題

飲酒問題については、Alcohol Use Disorders Identification Test-Consumption (AUDIT-C) を用いた。AUDIT-C は、3 項目からなるアルコール依存症のスクリーニングテストとして活用されているテストである。回答選択肢番号を合計し、その点数が男性で 5 点以上、女性で 4 点以上であれば、アルコール依存症を疑われる(4)5)。本調査では、COVID-19 の影響の中でご自身が一番つらかった時期の飲酒状況について回答を求めた。また、本研究では性別を問うていないため、カットオフを 4 点とした。さらに、COVID-19 の影響を受けた時期前後での飲酒量、飲酒頻度の変化も調査した。

4) 処方薬問題

処方薬問題については、松下らが翻訳をした The Benzodiazepine Dependence Questionnaire (BDEPQ)を用いた。これは、ベンゾジアゼピン依存症スクリーニングテストであり、総合得点は90点であり得点が高いとベンゾジアゼピン系薬物からの影響があると考えられる。海外ではカットオフ値を23点とすることが推奨されている項目である6)7)。本調査では、COVID-19の影響の中で自身が一番つらかった時期の飲酒状況について回答を求めた。

5) うつや不安障害の程度

うつや不安障害の程度として Kessler らが開発した自記式の尺度である K6 を使用した。この尺度は、うつ病・不安障害などの精神疾患のスクリーニングテストとして活用されている。合計点数が高いと精神的問題が重いとされている8)9)。本調査では、COVID-19の影響の中でご自身が一番つらかった時期の飲酒状況について質問している。

6) レジリエンスの程度

レジリエンスの程度については、Connor-Davidson Resilience スケール(CD-RISC)を用いた。これは、Kathryn M Connor 氏と、Jonathan R T Davidson 氏によって開発された尺度である。CD-RISC 10項目は得点が10-40点であり、平均31.8点(SD = 5.4)、中央値32点である。得点方法は、0~4点で採点し得点が高いほどレジリエンスが高いことを表している10)。本調査では、通常の状態のご自分にどの程度当てはまると思われるのかについて回答を求めた。

7) メンタルヘルスケアの支援体制の有無や活用実態

研究協力者の勤務地における支援体制や、その認知度、活用実態及び、個人としてコロナ禍において自身で対処したケアについて回答を求めた。また、看護師として精神的負担感についても自由記載を含めて調査を行った。

C. 研究結果

99名の回答を得た。平均年齢は38.8歳、経験年数は11年から19年の層が最多であった。また精神的影響を受けた時期については第7波の時期が最多であった。アルコール乱用リスクについては、AUDIT-Cで一定のリスクを持つもの(4点以上)は34.3%(34人)であり、6点以上と強くアルコール依存症が疑われるものが13.1%(13人)であった。またベンゾジアゼピン乱用リスクのあるもの(BDEPQ23点以上)は11.1%(11人)であり、スコア34点以上で強く依存が疑われるものは5%(5人)であった。K-6に見られる抑うつ・不安については、58%(57人)に抑うつ症状が見られ、12%(12人)がカットオフポイントである15点(この点数を上回ると50%以上の確率で精神疾患のリスクを有する)を上回った。

変数間の関連については、ベンゾジアゼピン乱用スケールと抑うつ尺度との間にやや正の相関が見られた(相関係数 $r=0.331$, $p<0.001$)。また抑うつ尺度を従属変数とする重回帰分析において、ベンゾジアゼピン乱用スケールが説明変数として有意であった。COVID-19対応の精神的ストレスがベンゾジアゼピン乱用に関与し、さらに抑うつの原因となっている可能性が示唆された。一方で、抑うつ尺度とアルコール乱用リスクとの間には明確な関連は見られなかった。またレジリエンスの程度とベンゾジアゼピン乱用、アルコール乱用との関連についても明らかではなかった。

D. 考察

全調査者のうち11.1%(11人)にベンゾジアゼピン乱用ないし依存のリスクがあり、5%(5人)に依存の可能性が疑われた。また13.1%(13人)にアルコール依存症の可能性が疑われた。また12%(12人)にうつ病の可能性が疑われた。

一般人口に対するベンゾジアゼピン乱用ないし依存リスクの正確な調査はないが、11.1%が乱用、5%が依存のリスクがあるという結果は非常に重要であり、潜在的には相当数の依存・乱用者が存在する可能性がある。今回の調査は看護師を対象としたものであるが、看護師のみな

らず、全医療者にこう言ったリスクがある可能性がある。

また抑うつについても 58%と実に 6 割近くが抑うつ症状を示し、12%がうつ病リスクを示した。

今回の結果から、多くの COVID-19 対応で相当数の割合の看護師がベンゾジアゼンの依存乱用、アルコールへの依存乱用、そして抑うつ症状を持っていることが分かった。今回の調査は COVID-19 対応前の変化は調べていないため、今回の結果が COVID-19 対応のストレスによるものか、あるいはもともとパンデミック以前からなのかは不明である。しかし少なくともパンデミック対応下では無視できない数の医療者がベンゾジアゼピン、アルコール、うつ症状の問題を持っている。この理由については以下が推測される。

1. パンデミックによるストレス
2. 身近にある/容易に入手できる
3. 即効性

今回の重回帰分析でも抑うつ症状への対処方法としてベンゾジアゼピン使用が行われている可能性が示された。パンデミック対応に対するストレスは自身の感染リスク、患者への感染対策、そして家族や周囲に対しても感染する・されるリスクなど多重的であり、非常に緊張度が高い。職場から帰ってきても常に感染を意識しなければならない状況は強度が高く、かつ持続的なストレスである。また看護師にとってベンゾジアゼピン系薬剤は日常的に接しているものであり、非医療者と比べて心理的なハードルは低い。また効果についても知っており、即効性があることを多くの看護師は実際の患者への投与経験を通じて知っている。こういったことから、ベンゾジアゼピンを使ってストレス対処しようという心理が多業種よりも強くても、十分に理解できる。

E. 結論

今回の結果から、COVID-19 対応ストレス下で

無視できない率の看護師がベンゾジアゼピン、アルコールの依存・乱用リスクを持つことが分かった。また抑うつ症状も多く見られることが分かった。今後は一般人口のみならず看護師など医療従事者に対しても、アルコールやベンゾジアゼピンなど精神作用物質の知識を普及させる必要がある。

今後もわが国にはさまざまな災害が発生する。その際に適切なストレス対処方法を取り、精神作用物質を用いない方法を提案することも必要である。

F. 健康危険情報

(総括研究報告書参照)

G. 研究発表

1. 論文発表

なし (現在国内誌投稿準備中)

2. 学会発表

1) 板橋登子、中村幸恵、長祥子、手塚幸雄、青木梨恵、阿部かおり、大森順基、鎌田美樹、佐久間みのり、野村照幸、手塚聖人、佐久間寛之:アルコール問題を持つ症例に対する救急医療従事者の苦慮や困難感 1) ストレス対処、バーン会うとの関連から. アルコール・薬物依存関連問題学会 合同学術総会. 2022 年 9 月 9 日

2) 長祥子、板橋登子、中村幸恵、手塚幸雄、青木梨恵、阿部かおり、大森順基、鎌田美樹、佐久間みのり、野村照幸、手塚聖人、佐久間寛之:アルコール問題を持つ症例に対する救急医療従事者の苦慮や困難感 2) 対応困難感 17 項目因子分析での課題抽出. アルコール・薬物依存関連問題学会 合同学術総会. 2022 年 9 月 9 日

3) 中村幸恵、板橋登子、長祥子、手塚幸雄、青木梨恵、阿部かおり、大森順基、鎌田美樹、佐久間みのり、野村照幸、手塚聖人、佐久間寛之:アルコール問題を持つ症例に対する救急医療従事者の苦慮や困難感 3) 自由記述の分析. アルコール・薬物依存関連問題学会 合同学術総会. 2022 年 9 月 9 日

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし